

まちの話題



チームの一員としてベストを尽くす



東京都で開催される第55回マクドナルド全国ミニバスケットボール大会に出場する高木翔矢選手と小鞠愛夕奈選手が3月21日(木)に川地憲元町長を訪問しました。

川地町長は「全国大会に出場し、活躍する選手が養老町から輩出されていることは大変誇らしいです。体調に気を付けて、万全な状態で挑んできてください」と激励し、両選手は「チームプレーを大事にして、得点に結びつくようなプレーをしたいです。ディフェンスからオフェンスへの切り替えを意識して、まず1勝を目指したいです」「上級生と協力し、最後まで全力でプレーしたいです。ディフェンスを特に大切に活躍したいです」と話しました。

「変わったこと」と「変わらないこと」



3月13日(水)に広幡小学校と上多度小学校の3年生が「まちの様子と人々のくらしのうつりかわり」をテーマとした社会科の授業において、オンラインで合同授業を行いました。授業はタブレット端末やインターネット情報通信を使用した「ICT教育」によって進められ、児童たちはタブレット端末を使用し、自分たちの住む地域の過去と現在の地図を見比べて気付いた「変わったこと」と「変わらないこと」を発表し、意見交換をしました。児童たちはまちの様子や暮らしの変化について学ぶとともに、ICTを活用した授業により加速する情報化社会の入口に立ちました。

身近にある課題の解決を目指して



3月14日(木)に養老町生活学校より、公共施設を利用する身体の不自由な人を支援するために車椅子1台を寄贈していただきました。養老町生活学校は、環境を守るための活動や福祉活動など、身近な生活課題の解決に向け、多岐にわたり取り組んでいます。なお、車椅子の寄贈は平成12年から毎年継続して行われています。

川地憲元町長は「平均寿命が延びて高齢者の数も増え、車椅子が必要となる人も多くなっています。これまでに寄贈された車椅子と同様に、今回いただいた車椅子も公共施設に設置し、活用していきます」と感謝を伝えました。

寄附いただいた車椅子は、公共施設において貸出用として設置します。

それぞれの気持ちを絵に



3月22日(金)から24日(日)にかけて、町中央公民館中ホールで養老絵画教室作品展〈それぞれの表現展〉が開催されました。作品展では養老町生涯学習絵画講座の生徒と下笠保育園の年長児、養老福祉作業所の人たちが制作した絵画が展示され、それぞれの気持ちが素直に表現された作品が並べられました。

1年間の成果を発表する場として開催され、どの作品も個性が十分に発揮された見応えのあるものばかりで、観覧にきた人を楽しませました。養老町生涯学習絵画講座絵画担当の西脇義照さんは「今後も絵画の制作や展示を継続していき、“美術の輪”や“人の繋がり”を広げていきたいです」と意気込みを話してくれました。